

令和7年度 学校評価表

(中間)

学校名 三原市立宮浦中学校

校番(27)

a 学校教育目標	未来を切り拓く「生きる力」を身につけた生徒の育成 ～学び合い、高め合う宮中生～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】 (自校の使命) ◎社会のために役立つとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】 (自校の将来像) ○ この先の社会に出た時に役立つ「生きる力」を育成する学校 ○ 社会に貢献できる自立した人間を育成する学校 ○ 生徒・保護者が本校で学ぶことを誇りに思える学校
----------	--	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方策		学校関係者評価			
o 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標 (目標のめやす)	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	育成すべき資質・能力(知識技能、学(ひ)に向かう人間性)を身につけ、主体的に学び合い高め合う生徒の育成	○学力調査において、本年度全学年・全教科全国平均以上 ○学び合いによる、生徒同士の高まり合い	・学力調査(標準学力調査)の伸び	2ポイントアップ	—	—	—	—	・4月当初に計画した通りに実施できており、研究テーマに沿った授業づくりに努めている。	・目標達成に向けて、5教科だけでなく、全教科で力をつける取組をすすめていく。	4			・このまま一丸となって取り組む姿勢を継続していただきたいです。
			・校内授業研究の実施	一人1授業研究	—	—	—	—	・全学年目標値を達成している。 ・生徒は、「今までに習ったことと比較するとき」「自分の考えと異なる考えがでたとき」等に問いをもつことが多。	・取り組みを継続し、授業改善に努める。	4			・経年数関係なく意見交換できる環境を継続していただきたいです。
			・問いや課題に対して自分なりの考えを持ち表現している生徒の割合(アンケート)	80%以上	84%		105%	A	・「全学年目標値を達成しているが、1年生は79.5%である。 ・生徒は「アイデアを出すとき」「問題の解決方法を考えるとき」等に、協働的に取り組むことで学びが深まると感じている。	・本時のめあてを提示するまでのストーリーを作る。 ・自分の考えを表現する場の設定をする。	4			・他の人と違う考えに「なぜ?」が生まれるのでその違いをコミュニケーションしていくことで、自分の幅をつくっていけるようにしたら良いのではないかと考えます。
			・生徒同士の話し合いや協働を通して自分の考えを深めている生徒の割合(アンケート)	80%以上	84%		105%	A	・「全学年としては目標値を達成しているが、1年生は79.5%、2年生は79.6%である。 ・振り返りを共有することで、学びが深まると感じている生徒が多見られる。	・授業において「人に話したい」「他の人の意見が聞きたい」と思えるタイミングで協働的に取り組む場の設定を意図的に行う。	4			・自分で考えた答えを人に説明するということは、「プロセスを理解しない」とできないことなので、非常に良い事だと思いました。
			・自らの振り返りや他者との振り返りの共有により自分の学びを深めている生徒の割合80%以上	80%以上	82%		103%	A	・「全学年としては目標値を達成しているが、2年生は79.6%である。 ・何かを調べるときに、辞書ではなくクロムブックに頼る傾向がある。	・市がすすめている「R80」の取組を継続して行い、授業内で交流できるようにする。	4			・他の人とのコミュニケーションでさらに自分の考えを見つめ直す時間を設けることは非常に良い事だと感じました。
豊かな心の育成	夢や希望を抱き、社会に貢献する気概を持った生徒の育成	○不登校生徒発生の未然防止 ○不登校等生徒への支援の推進 ○自己有用感の育成・充実した学校生活 ○自己指導能力の育成 ○郷土愛の育成	・多様な学びの場、つながりの場の提供	個に応じた支援	100%		100%	A	・「長欠の生徒の増減はあるが、SSR等の居場所づくりはできた。 ・SCやSSW、小学校との連携を積極的に取り、支援に活かした。週に1回の生徒指導(うち1月で教育相談委員会)を適切に運営することができた。	・個々の状況に応じて家庭や学校において多様な学びの場、内容、方法が提供できるように、引き続き工夫する。 ・教育相談Co.が中心になってSC、SSW、関係機関等との連携をより密にし、支援を進める。	4			・学校全体、地域と協力されている活動は継続していただきたいです。 ・いろいろな状況に対応する場所があることは、生徒の学びを止めないということに意義があることだと思います。 ・不登校生徒の取組は大きな課題だと思う。人数を目標にするのではなく、取組の継続を目標と市、学校全体で、取組の継続へつなげるのはどうでしょうか。
			・学校に行くのを楽しんでいる生徒の割合(生徒アンケート)	90%	91%		101%	A	・「毅然とした生徒指導により、真面目に学校生活に取り組みたい生徒が安心して授業等に取り組めるようになった。	・毅然とした生徒指導を継続するとともに、行事や学習等での成功体験を認めながら学校生活への意欲を高める。	4			・5W1Hを生徒に問いつける活動は継続していただきたいです。 ・TPOを理解することが大切なのだと思います。
			・あいさつ、時間、掃除についての肯定的に自己評価する生徒の割合(生徒アンケート)	90%	93%		103%	A	・「時間を守ること、掃除をすることについては90%の生徒が肯定的評価をしているが、あいさつについては、85.4%の肯定的評価であった。	・生徒会の月目標であいさつ、時間、掃除に関わる目標を立て、全校で共通認識をもって取り組みを行う。	3		1	・挨拶について、地域・保護者と一緒に学ぶことが出来たらよいと思います。 ・習慣にする創意工夫がなされている。
			・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある生徒の割合。	60%	71%		118%	A	・「職場体験学習をした2年生では特に肯定的な回答をした生徒の割合が高かった。	・職場体験活動や地域のゲストティーチャー、ボランティア活動など、地域の方とともに稼働する場を設定する。	3		1	・学校以外での活動の場が色々用意されている。学校以外の大人や子どもとのコミュニケーションは中学生にとって刺激を受ける場所だと思います。
			・教育活動に満足している保護者の割合(保護者アンケート)	85%	84%		99%	B	・「ほぼ目標値には達することができた。「あてはまらない」と回答した割合が16%いることから、きめ細かな対応がより求められる。	・授業、学級経営、生徒指導その他あらゆる場面できめ細やかな対応を校内全体で行い、満足度を上げていくよう組織的に取り組んでいく。	3		1	・PTAにできることがあれば協力したい。 ・年度末にかけて、取り組みを進められる意欲を込めた評価と思われる。
信頼される学校	生徒・保護者が本校で学ぶことを誇りに思える学校	○学校満足度の向上 ○学校教育活動の発信 ○郷土愛の育成 ○環境整備を推進し、美しく働きやすいづくり ○働き方改革の推進	・HPや各種たより、すぐるの内容がわかりやすいと答えた保護者の割合(保護者アンケート)	80%	92%		115%	A	・「各担当者が丁寧に情報発信を行ってきた。 ・ただ情報発信するだけでなく、読み手を意識した内容づくりに努めた。	・「素早い情報提供、読み手を意識した内容など、相手意識を考えた情報発信を今後も丁寧にやっていく。	4			・発信内容を精査された活動は継続していただきたいです。 ・「すぐる」は多岐にわたる情報を提供していると思う。
			・時間外勤務が月45時間以内の職員の割合	80%	67%		84%	B	・「目標値には届かなかったが、昨年度よりは、月45時間以内の職員数は増加した。また、時間外勤務時間の縮減がすすんでいる。	・定時退校日の徹底及び早期退校の奨励をするとともに、時間外縮減だけでなく、業務の精選および整理を行い、業務改善を進めていく。	3		1	・あらゆる制限の中、生徒のための行動を改善しなければならないのでしようか。時間はかかると思います。 ・業務量は減らない中で、できる対策を進められていると考える。
			・組織の一員として自分の強みが生かされていると感じている教職員の割合	80%	92%		115%	A	・「目標を大きく上回ることができた。 ・「チーム」として機能するよう、職員間のコミュニケーションを図りながら、風通しの良い職場環境づくりに職場全体で努めた。	・「働きやすさ」と「働きがい」の両面が感じられる職場環境づくりに努める。	4			・目標を大きく上回る職場環境、素晴らしいです。これからも継続していただきたいです。 ・教職員間の関係が良くなっていることが、生徒にも波及していると思われる。

[J: 自己評価 評価]

A: 100 ≤ (目標達成) B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
C: 60 ≤ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

[I: 学校関係者評価 評価]

イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正ではない。
ハ: 分からない。